

研究課題名

安定冠動脈疾患患者の光干渉断層法による冠動脈構造と冠血流予備量比の相関性の検討

研究機関

愛媛大学医学部附属病院 循環器・呼吸器・腎高血圧内科学講座

研究責任者

清家史靖(循環器・呼吸器・腎高血圧内科学)

研究の目的

戦後国民の生活水準が向上して食生活を含む生活習慣の欧米化が進み、狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患のリスクが本邦においても増加の一途を辿っております。労作性狭心症の治療に関しては、虚血の診断及び重症度がより重要視されるようになってきており、FFR(Fractional flow reserve, 冠血流予備量比)の有用性が確認されています。この指標に基づき治療を施行した場合、虚血性心疾患の予後が改善することが報告されており、現在国際的にも FFR が高く評価され、本邦においても使用頻度が年々増加しております。一方、光干渉断層法(OCT)などの冠動脈内評価装置も著しく進歩しています。OCT は $10\mu\text{m}$ の評価が可能で、冠動脈構造を詳細に観察することが可能です。今回我々は、OCT から得られた冠動脈の構造から FFR を計算する新たなアルゴリズムを作成しました。OCT から得られた冠動脈の解剖学的情報と FFR の関係を明らかにすることが今回の研究の目的です。

研究の方法

- 研究期間

2015年1月1日から2018年2月28日まで、研究の実施を予定している。

- 対象となる方等

各施設で冠動脈造影検査を施行された患者様の中のうち OCT と FFR を同時期(2ヶ月以内)に測定された患者様を対象とします。

- 研究に利用する試料、情報等

情報:入院時に評価した通常行っている検査や病歴などと、OCTとFFRの情報を評価します。

- 本研究では、この研究は、他の病院と共同で行っています。

対象となる患者さんのデータは、匿名化されて、画像はHDDに保存し、診療情報は紙に記録をして郵送することによって愛媛大学医学部附属病院に送られます。多くの情報を解析することで、医学・医療の発展に役立つ成果が得られることが期待されます。

個人情報の取り扱い

収集した情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる個人情報を除いて匿名化いたしますので、個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。この研究の対象となられた方で「ご自身の診療録(カルテ)は除外してほしい」と望まれる方は下記お問い合わせ先までご連絡下さい。

問い合わせ先

愛媛大学大学院医学系研究科 循環器・呼吸器・腎高血圧内科

清家史靖

791-0295 愛媛県東温市志津川

連絡先 089-960-5303